

5. 小児の体温に関する研究(I)

教授 松田 博 (愛媛大学医学部小児科)

I 正常体温

対象

新生児105例(男児29例, 女児76例), 幼児147例(男児84例, 女児63例), 学童・生徒740例(男児373例, 女児367例)

方法 略

結果

- (1) (新生児:各時刻における平均体温は, 36.71°C ($36.1\sim 37.3^{\circ}\text{C}$), 36.69°C ($36.1\sim 37.2^{\circ}\text{C}$), 36.79°C ($36.2\sim 37.5^{\circ}\text{C}$)で, 男女の差はなかった。室温は 28°C 前後に保たれていた。男女別々に, 各測定時のSDを算出したが, $SD 0.24\sim 0.29$ であった。
- (2) 幼児:各測定時刻の平均体温に男女差はなく, 起床時やや低く, 午後にやや高い傾向がみられたが, その差はわずかであった。図1に1~2才, 4~5才の体温の日内変動とSD, 室温の変化を示した。
- (3) 学童・生徒:各時刻の平均体温は起床時に低く, 午後にやや高く, そのピークは16~18時にあったが, 体温差は $0.15\sim 0.3^{\circ}\text{C}$ であった。図1に9~10才児の体温の日内変動, SD, 室温の変化を示した。
- (4) 体温と室温:各年齢, 各測定時刻ごとに体温と室温との相関係数を算出したが, 相関は認められなかった。
- (5) 正常温の設定:例数が少ないので何ともいえないが, 正常範囲を平均体温 $\pm SD$ とすれば, 幼児, 学童, 生徒いずれにおいても最高体温は 37°C を超えない。 $\pm 2SD$ とすれば最高体温は従来正常範囲と定義されている体温に近いが, 最低体温はやや低すぎるように思われる(図1)。

II 重症心身障害児の体温

対象

幼児9名, 学童・生徒80名, 計89名(重症度1:32名)重症度2:51名, 重症度3:6名)で, いずれも施設収容児である。

方法 略

結 果

平均体温のリズムは、重症度による差は殆んどなく、室温との相関も見出せなかった（室温は24時間エアコンにより23～28℃に保たれている）。個々の例をみると、体温の日差が0.6～1.0℃を示したものが81.9%、1.1～1.5℃、17.1%であった。7日間の測定期間のうち1日のみ日差1.5℃以上を示したものは23名、2日であったもの4名、3日であったもの1名であった。心身障害児の体温の日内変動は、個々の例でみると正常児に比し変化が多いのではないかと推察された。

9~10才男児(63名)				4~5才男児(19名)				1~2才女児(11名)						
M	36.34	36.47	36.61	36.39	M	36.27	36.33	36.56	36.41	M	36.16	36.27	36.47	36.43
SD	0.28	0.35	0.45	0.36	SD	0.31	0.33	0.41	0.42	SD	0.36	0.26	0.42	0.30
〔S. 53. 12. 初旬〕				〔S. 53. 11. 下旬〕				〔S. 53. 11. 下旬〕						

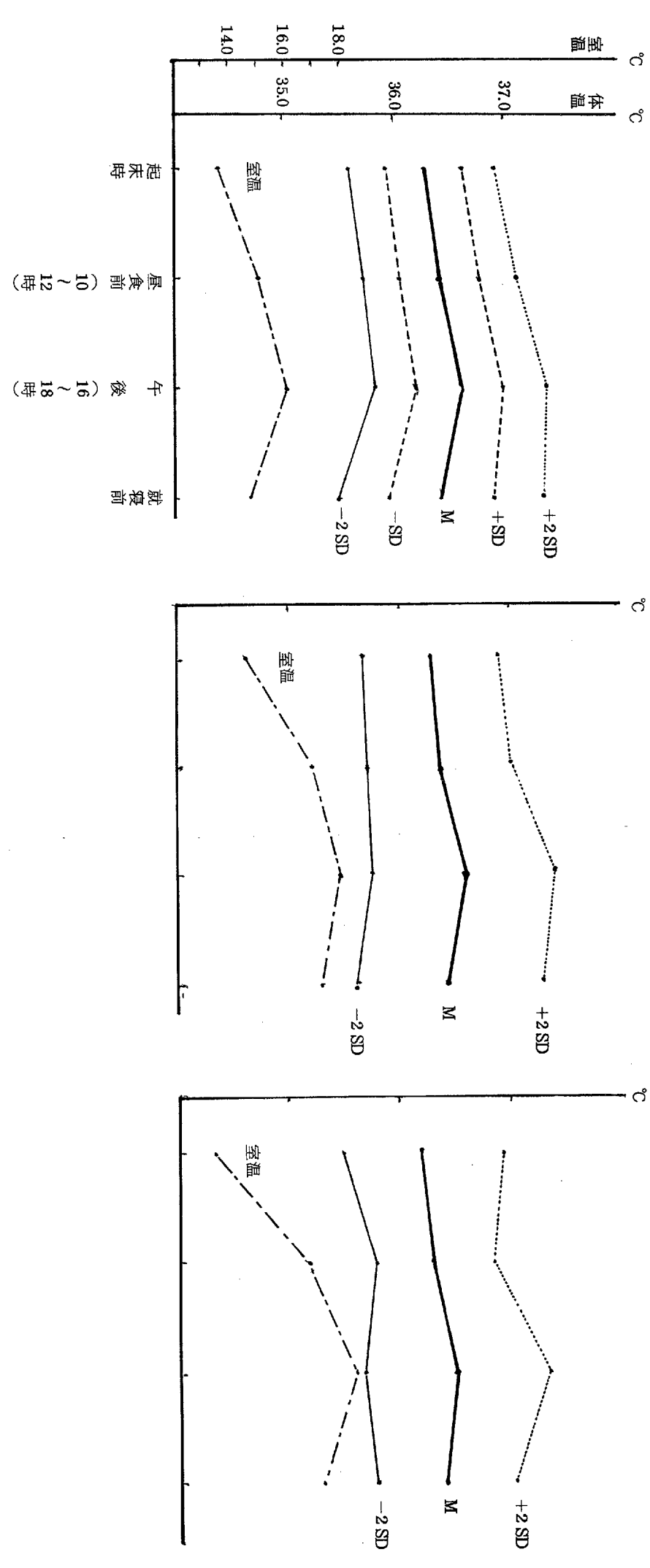
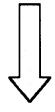
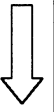


図-1 正常児における体温の日内変動



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



正常体温

重症心身障害児の体温